

富士宮西ロータリークラブ 会報

Rotary



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

国際ロータリークラブ第2620地区 2021～2022年度 RI会長 シェカール・メータ
会長 今村 一徳 幹事 矢部 英樹



例会場より

例会場 ゲストハウス フォレストヒルズ 例会日 毎週金曜日 月の最終週 夜間
事務所 〒418-0034 静岡県富士宮市黒田 205-1 ゲストハウス フォレストヒルズ内
TEL 0544-22-8899 FAX 0544-22-7666 Mail fujinomiyawestrotary@mountain.ocn.ne.jp

NO.16 通算1468号 2021年11月19日(金)

本日の予定

クラブ協議会：R財団委員会担当

ゲストビジターの紹介

副会長 矢部 英樹 君
ゲスト&ビジターはありません

会長挨拶

会長 今村 一徳 君



先週の交流会は久々の会食を兼ねた内容で大変有意義で楽しかったです。今日は私の業界のお話をさせていただきます。コンタクトレンズの話です。メガネ・コンタクトレンズの原理はルネッサンス時代のレオナルド・ダ・ヴィンチによって発見されたと言われています。

しかし、実際に目に装用するガラス製のコンタクトレンズが作られたのは1888年、スイスの眼科医によるもので、近視である自らの目にコンタクトレンズを装用する実験を行ったのが初めてだとされています。その後、1938年にはPMMAというプラスチック素材を使った初代のハードコンタクトレンズが登場しました。

1961年になると、水分を含み柔らかい素材を使用したソフトコンタクトレンズの製法が確立されてきました。日本においては1949年、当時の名古屋大学の水谷豊博士がPMMA製のハードコンタクトレンズの作成に着手し、1951年に視力矯正の臨床実験に成功したのが始まりだと

言われています。

ちなみに、日本で最初にカラーコンタクトという瞳の色を変えられるカラーコンタクトをしたスターが沢田研二で「TOKIO」を歌ったときに金色の瞳のレンズを装用していました。しかし、このレンズは無水晶体の虹彩（瞳）の無い患者様用で健康な目の方が使用するにはかなりの痛みが伴ったはずで、きっと眼内麻酔をさしてステージで使用していたと思われます。

さすが大スター、ジュリーのパフォーマンスです。



←米山梅吉記念奨学会の感謝状を披露する今村会長と竹田奉仕プロジェクト

幹事報告

幹事 矢部 英樹 君

別紙幹事報告を参照ください。

出席報告

☆印は出席免除者

欠席者 ☆細野芳男 ☆外木規之 ☆遠藤壽男
仲亀秀樹、渡辺弘光、石川俊洋

	計算会員数	出席	欠席	MU	出席率
今週	23	20	3	0	86.9%

【会報委員会】 委員長：伊原謙治 委員：仲亀秀樹 片岡博昌 石田道彦 近藤憲司 斉藤邦男

スマイルボックス

- ◎久しぶりの出席、無事に戻れて感謝 宇佐美量三、
- ◎コロナもこのまま治まることを願います 今村一徳
- ◎R財団担当の研修よろしくお願ひします 矢部英樹
- ◎前週良い話をたくさん聞けました 後藤憲治
- ◎年の瀬も間もなく。一年が早いです 若林眞治

お祝い・記念日

夫人誕生日 今村千加子様 (今村一徳夫人)
矢部道代様 (矢部英樹夫人)

クラブ協議会

ロータリー財団委員会主催
渡邊委員長からプロジェクターにより、R財団の役割機能について丁寧な説明がなされました。説明中、説明終了後も会員皆様からの質問はありませんでした。



また当日、『2021年度の年次基金目標は150ドル』と明示された「寄付金封入用の封筒」が配布されました。

ご参考：紙幅が残りませんでしたので、RI日本事務局財団室
NEWS11月号記事他を紹介申し上げます。

1, 2021年10月22日現在の寄付総額順位

米国19,897,151 \$、韓国8,778,992 \$に次いで、
日本は4,163,781 ドルで3位です。

2, 日本の今年度寄付目標は以下の通り

- ◎年次基金：一人当たり150ドル
- ◎ポリオプラス：一人当たり30ドル
- ◎恒久基金：冠名基金を各地区1件以上設立
- ◎大口寄付：1万ドル以上100件、AKS10名増
- ◎ポリオプラスへDDFの20%を寄贈
- ◎ロータリー平和センター、ならびに

重点分野へDDF寄贈

3、R財団に寄付する理由

◎ブラジルのU夫妻

私たちにとって寄付することは「世界で良いことをするという財団の使命を支えることです。ロータリーとその財団は各種プロジェクトと人道的プロジェクトを通じて、より良い世界に向けて効率的に活動しています。

◎日本のM夫妻

ロータリー入会当初、寄付するという考えはありませんでした。しかし、いろいろな経験を積み、多くの方からお話を聞き、感動して、時には涙を流し、そうして寄付への意欲が高まりました。寄付した瞬間、人の役に立てた喜びと幸せな気持ちに満たされ、ポジティブなエネルギーに包まれた感じがいたしました。

◎カナダのB夫妻

今日、R財団に寄付することで、今も将来も会うことがないであろう多くの人の生活に変化をもたらすことができます。それを思うと謙虚かつ恵まれた気持ちになります。

◎ケニアのK夫妻

ロータリーに寄付することで、私達がこの世を去った後も末永く、人々の人生に触れ、良いことをしていくことができます。これは私達がずっと望んでいたことです。

◎韓国のY夫妻

私達が最初に寄付すれば、一緒に応援してくれる人が増えます。わずかでも共有すれば、それがより多くの寄付を導く灯りとなることを信じています。私達は今日、祈ることしかできない人達に奇跡が起こるような美しい世界を夢見で寄付いたします。

◎台湾のR夫妻

私達の父は人生の辛い時期においても人を助けていました。そのような父が世界で良いことをしているR財団に寄付するよう背中を押してくれました。

以上